

詩とは意志の解脱であり、その涅槃への思慕を歌ふ郷愁である

感情の精緻や神経の戦慄を口語で表現した第一詩集『月に吠える』は、当時の詩壇へ大きな影響を与え、萩原朔太郎の名を世に知らしめました。その後6年の時を経て、1923(大正12)年1月に第二詩集『青猫』、7月には第三詩集『蝶を夢む』を刊行、それから100年を迎えました。

『青猫』は、朔太郎が『月に吠える』以前より囚われ続けてきた情欲や精神的苦悩、さらに私生活の変化などから色濃く受けた疲労感や倦怠感、思索的鬱鬱性など、それらを独自の感性で口語詩へと昇華させています。後年に執筆の「青猫を書いた頃」では、「青猫を書いた頃は、私の生活のいちばん陰鬱な梅雨時だった。その頃私は、全く「生きる」といふことの欲情を無くしてしまった。」(「新潮」1936(昭和11)年6月 新潮社)と回想しています。

本展では『青猫』を軸に、詩作に影響を与えた苦悩やエピソードの経緯を書簡や原稿、初出誌などの資料から紹介、創作過程の一端を紐解きます。さらにそこから、1936(昭和11)年に自ら定本として刊行した『定本青猫』へ辿りつくまで、『蝶を夢む』や他の詩集との関係性も含め、背景を探ります。



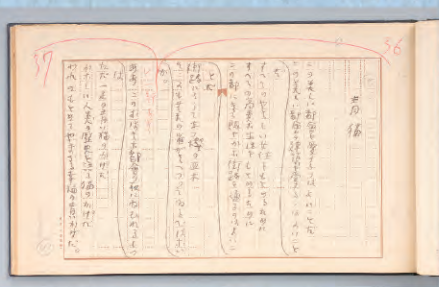
萩原朔太郎 はぎわら さくたろう

1886(明治19)年11月1日、群馬県前橋市生まれ。旧制前橋中学時代、従兄弟の萩原栄次から短歌の手ほどきを受け、文学の道へ。詩に転向後、1917(大正6)年に第一詩集『月に吠える』を刊行し、詩壇へ大きな影響を与える。1923(大正12)年に『青猫』を出版、これにより口語自由詩の確立者として不動の地位を得た。詩作の他、アフォリズムやエッセイ、詩論も多数執筆。1942(昭和17)年5月11日に肺炎のため死去、享年55歳。

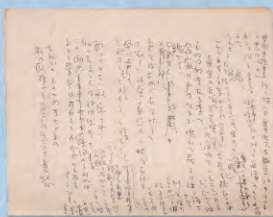
No.1~5 展示資料



No.1 萩原朔太郎書簡 高橋元吉宛 1917(大正6)年秋頃



No.2 「蝶を夢む」自筆原稿帖より「青猫」(一部)



No.3 創作ノート2(ノート7)より「鶏」の草稿



No.4 「青猫追記」『日本詩人』1923(大正12)年1月号 新潮社



No.5 「箱人の独語」『書物展望』1942(昭和17)年11月号 書物展望社

# BLUE MELANCHOLIE



## 企画展 記念イベント

作品朗読会 『青猫』世界~情炎と憂鬱が昇華するとき~  
『青猫』の世界を出演者がそれぞれの感性と個性で表現豊かに朗読します。

2024年2月17日(土) 14時~(開場13時30分)  
出演：磯干彩香(あかぎ団)・加藤さやか(あかぎ団)・東野善典(地元役者)  
萩原朔美(前橋文学館館長)・KPC(音楽)・他 定員：先着80名  
申込開始日：2023年12月18日(月)

ワークショップ その1 「ミニ障子」を作ろう

展示会とその会場をより深く楽しむ! 朔太郎の詩にも登場する「障子」を展示に協力いただいた建具組合の職人さんと作ります。

2024年5月26日(日)  
講師：群馬県建具組合連合会(協力：群馬県職業能力開発協会)

ワークショップ その2 「猫なチャーム」を作ろう

「青猫」にちなみ、振ると音がするシャカシャカチャームを作ります。大人も子供も楽しめます。

2024年4月13日(土)  
講師：前橋文学館のひと

文学館へ行ってみよう!  
体験  
ワークショップ

各ワークショップともに

1回目 10時~11時30分  
2回目 13時~14時30分  
3回目 15時~16時30分  
(予定)

各回定員：20名  
申込開始日：3月18日(月)



◎アクセス◎  
電 車：JR前橋駅北口から徒歩約15分/タクシーで約10分  
上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分  
バ ス：JR前橋駅北口バスのりば  
・3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)  
「中央前橋駅」下車 徒歩約5分  
・6番のりばから「菰窪公園・菰公園」行き  
「城東町二丁目バス停」下車 徒歩約5分  
自動車：関越自動車道 前橋ICから車で約15分  
※広瀬川サンワパーク(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち  
前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10  
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512  
https://www.maebashibungakukan.jp

同時期開催  
飛行機乗りと風船乗り  
「ふはりふはりと昇つて行かうよ。」  
—サン=テグジュペリ・堀越二郎・萩原朔太郎  
2024年3月9日(土)~6月9日(日)  
会場：3階オープンギャラリー

※未就学児の参加は保護者が補助できる場合は参加可能。イベントの詳細はHPをご覧ください。  
小学生以下のお子様は保護者(16歳以上の方)同伴で入館をお願い致します(保護者の入館料が別途かかる場合がございます)

参加費：無料 (入館料別途)  
申込み：事前予約(空きがあれば当日参加も可能)  
会場：文学館3Fホール  
TEL.027-235-8011



担当学芸員によるギャラリガイド 3月23日(土)15時~(予約不要)  
会期中、展示替えを行います。詳細につきましてはHPにてご確認ください  
展示会案内サイト▶